

2019年11月7日

各 位

仙台市青葉区一番町二丁目1番1号  
株式会社 仙 台 銀 行

仙台銀行ホール イズミティ21 コンサートシリーズ  
「イズミノオト 第1回 ブラームスノ雨ノ歌」への協賛について

株式会社仙台銀行（本店 仙台市 頭取 鈴木 隆）は、仙台銀行ホール イズミティ21にて下記のとおり開催されるコンサート「イズミノオト 第1回 ブラームスノ雨ノ歌」へ協賛しますのでお知らせいたします。

当行は、今後も仙台市と連携を図りながら、地域の皆さまの文化活動への支援を通じて、震災からの復興と地域経済の活性化に貢献してまいります。

記

1. 開催日時

2020年2月8日（土） （開演）15：00 （開場）14：30

2. 会場

仙台銀行ホール イズミティ21 小ホール

3. 入場料

全席指定 3,000 円（市民文化事業団友の会料金 2,700 円）・未就学児入場不可

4. 各種お問い合わせ先

（1）チケットについて

仙台市市民文化事業団総務課 TEL：022-727-1875（平日9：30～17：00）

（2）公演について

仙台銀行ホール イズミティ21 TEL：022-375-3101（9：30～19：30・休館日除く）

以 上

問い合わせ先  
経営企画課 奥田・三浦  
電話：022-225-8258

仙台銀行ホール イズミティ21 コンサートシリーズ

イズミノオト 第1回 **ブラームスノ雨ノ歌**

チェロ・  
コーディネーター **吉岡知広**

ヴァイオリン **大江馨**

ヴィオラ **鈴木康浩**

アルト **高山圭子**

ピアノ **倉戸テル**

ピアノ **石丸友貴**

2020

2 / 8 SAT

[開演]午後3時 [開場]午後2時30分

[会場] 仙台銀行ホール イズミティ21 小ホール

(仙台市営地下鉄泉中央駅北3出口すぐ)

[入場料] 全席指定 3,000円

(市民文化事業団友の会料金2,700円・未就学児入場不可)

10月3日(金)一般発売

# Johannes Brahms

[プレイガイド] 仙台銀行ホール イズミティ21、日立システムズホール仙台、藤崎、仙台三越、ローソンチケット(Lコード22030)

[チケットに関するお問い合わせ] 仙台市市民文化事業団 総務課 TEL:022-727-1875 (平日9:30～17:00)

[公演に関するお問い合わせ] 仙台銀行ホール イズミティ21 TEL:022-375-3101 (9:30～19:30・休館日除く)

[主催] 公益財団法人仙台市市民文化事業団、KHB東日本放送 [企画制作] 仙台銀行ホール イズミティ21、HAL PLANNING [協賛] 仙台銀行

イズミノオト

第1回目は

ヨハネス・ブラームス。

彼を取り巻く友情関係と  
作曲の源泉を

たどってみましょう。

## ハンブルク時代の ブラームス

自由ハンザ都市ハンブルク。市民劇場のコントラバス弾きの父と、その父よりも17歳上(！)の母のもとに、1833年ヨハネス・ブラームスは生まれました。質素な家庭の中、父はヨハネスに自分と同じように音楽で生計を立てられるよう、ヴァイオリンの手ほどきをしました。少年ヨハネスの興味は既に幼い頃からしっかりとピアノへと向いていたようです。7歳の冬には、オットー・フリードリヒ・ニコッセルの門をたたきますが、その才能にニコッセルは、彼の才能を決して埋もれさせたいなら、二人の献身的な指導を受けたことで、ドイツの伝統的な音楽教育の基礎を十分に学ぶことが出来たのです。

当時のハンブルクは大火に見舞われるなど、苦しい経済状況でした。父の楽隊仕事だけでは足りず、母や姉たちがお針子や小間使いをしながら生計を支えていました。そしてヨハネスも音楽の勉強を続けつつ、13歳から酒場やダンスホールでピアノ弾きとして働くことで生活を支えます。

この時期、ハンガリーのヴァイオリニスト、エドゥワルト・レマーニとの出会いがヨハネスに大きな影響を与えます。愛国の情熱に燃えるレマーニとの演奏活動は、のちのヨハネスの「ハンガリー舞曲」誕生の礎となります。また同じころ、ヨハネスはヨーゼフ・ヨアヒムという生涯の友を得ています。晩年に至るまでその作曲活動において助言を求めることとなる稀代のヴァイオリニストでした。

## 「新しい道」 —シューマン夫妻との出会い—

1853年9月30日、ヨハネスはその前年からデュッセルドルフに住むシューマン夫妻のもとを訪ねます。ヨハネス20歳。亜麻色の髪に青い目、青白い肌をもつ純真で美しき青年だったそうです。一方、ロベルトは43歳。ヨハネスが、自作の「ピアノナタ」をひとしきり弾いたところで、「妻にも聴かせたい」と、クララを部屋に迎え入れます。

クララはその日の日記に「神が既製品として、この世に送ったとは思えない。」とヨハネスの資質を絶賛しています。そしてロベルトもまた「ごく久しぶりに自らペンをとり、かの有名な『新しい道』という紹介文を『音楽新報』に寄せたのです。この『音楽新報』はロベルト・シューマンが創刊した音楽誌で、ペーター・ヴェン崇拝をうちたて、シューベルト再考を促し、天才シヨパンを称賛するなど、当時の多くの音楽関係者が読んでいたものでした。そこに、ロベルトは、この若き才能を惜しみなく賞賛し、紹介したのです。

「そして彼は来た。優雅と英雄の女神にゆかり」を守られて育ってきた若者。その名はヨハネス・ブラームス。ロベルトはさらに自身と付き合ひのある出版社に、無名のブラームスを紹介し、彼のピアノソナタの作品1-5を立て続けに出版させました。ロベルトの思いついた推薦のおかげで、ヨハネスはたちまち楽壇へとデビューすることとなりました。

## ロベルトとの別れ、 シューマン一家とヨハネス

ヨハネスを世に送り出した翌年、ロベルトは、デュッセルドルフを流れるライン川に投身自殺をはかります。幸いにも命をとりとめたものの、精神的に身も心も消耗しきったロベルトは、ボンの精神病院への入院を余儀なくされました。その当時、6人の子供と、さらに身重の状態だったクララは、悲嘆にくれる間もなく、おそらく音楽史上最初のワーキングマザーとして生計を支えるため演奏活動を精力的に行いました。ロベルトとの結婚前か、クララは、リストと並ぶほどの人気ピアニストだったのです。

今でいう「ワンオペ育児」に身をやつしながら各地を飛び回って演奏会をする間、ヨハネスは、シューマンの家で子守や家事の手伝いをしながら作曲活動に動んだといえます。有名な「ブラームスの子守歌」も、この時にシューマン夫妻の子どものたちのために書かれています。

1856年、遂に回復することなくシューマンは47歳で世を去りました。あまりにも悲しいこの別れはヨハネスにも大きなショックを与えます。当時36歳のクララは、7人の子どもを抱え未亡人となりました。ヨハネスは、強く優しき母であり時に働き疲れる女性であり、芸術作品に対するよき理解者でもあったクララの傍に寄り添い、支えます。クララが亡くなるまで二人の間には、800通を超える往復書簡が残っていますが、互いの呼び名は「敬愛する奥様」から「最愛のクララ」へ。そして「親愛なるブラームスさん」から「愛するヨハネス」へ変化し、その距離感の変化を知ることが出来ます。ヨハネスにとって唯一無二の芸術のミューズであったクララ。それゆえ、クララの誕生日である9月13日は、クララの誕生日のためヨハネスが送る数々の名曲の誕生日ともなっていくのです。



1810年  
ロベルト・シューマン

ツヴィツカウに生まれる

1819年  
クララ・シューマン(ヴァイク)

ライプツィヒに生まれる

1831年  
ヨーゼフ・ヨアヒム

ハンガリー・キットゼーに生まれる

1833年  
ヨハネス・ブラームス

ハンブルクに生まれる

1840年  
ブラームスピアノを始める

1846年  
ハンブルクの居酒屋でピアノ演奏を始める

1850年  
レマーニとの最初の演奏旅行ヨアヒムと出会う

シューマン夫妻と出会う

シューマンが『音楽新報』に「新しい道」寄稿

ピアノソナタ 第1番 作品1 作曲



シューマン夫妻

1854年  
シューマン投身自殺

1856年  
シューマン没



クララ・シューマンと子どもたち

1859年  
ヨアヒムの指揮で、ピアノ協奏曲 第1番

作品15を初演。恋人アガターと別離

1865年  
母の死。チェロソナタ 第1番 作品38 作曲

弦楽六重奏曲 第2番 作品36 作曲

ホルン三重奏曲 作品40 作曲

1867年  
ドイツ・レクイエム 作品45 初演

1871年  
ウイーン楽友協会音楽監督に就任

1872年  
父の死

1873年  
歌曲「雨の歌」作品59 作曲

1874年  
ピアノ四重奏曲 第3番 作品60 作曲

1876年  
交響曲 第1番 作品68 初演

1877年  
夏の時期をベルチツッパで過ごし、  
交響曲 第2番 作品73 を作曲

1879年  
ヴァイオリン協奏曲 作品77 作曲

ヨアヒムによって初演される



ヨーゼフ・ヨアヒム

1884年  
アルト、ヴァイオラのための2つの小品 作品91 作曲

1893年  
6つのピアノ小品 作品118 作曲

1894年  
クラリネット(ヴァイオラ)ソナタ 作品120 作曲

1896年  
クララの死。 4つの厳粛な歌 作品121 作曲

1897年  
ブラームス 64歳で没

# Johannes Brahms

## ブラームス イズミノオト

「チェロソナタ 第1番」この作曲途中に、ブラームスは最愛の母を亡くしています。貧しいながら教育に力を尽くしてくれた母の存在が、今日、ブラームスが作ったわけでの喪失感は大きかったに違いありません。同年に書かれた「ホルンソナタ」同様、暗い影を落としています。

また、1879年には、ロベルトとクララの間生まれた末息子のフレックスが病気で亡くなります。ロベルトによく似ていたこの末子をクララはとりわけかわいがっていたようです。子供に先立たれた悲しみにくれるクララに、ブラームスは心からの哀悼と愛情をもって手紙を書き、そして「ヴァイオリンソナタ 第1番」の譜面を同封します。その3楽章にはかつて、クララが好きだった歌「雨の歌」を用い、2楽章の冒頭には、クララをいたわり慰めるという言葉が寄せられています。クララはその楽譜を受け取ってすぐにピアノで奏でました。ブラームスの意図したとおり、クララは3楽章の旋律の中に自ら愛した歌曲を見つけたでしょう。(中略)私は心の中であなたの手を握り、

「アルトとヴァイオラによる2つの歌」は、深い友情で結ばれたヨアヒムの長男誕生を祝って作曲されたものでした。ヨハネスが愛した中音域が駆使された美しい曲です。第2曲は、ドイツに伝わる親しみあるメロディに始まり、生まれたばかりのイエスを気遣う母親マリアが静けさに始まり、聖なる子守歌というタイトルを持ち、誕生日にはびつたりな贈り物となりました。

「ピアノ四重奏曲 第3番 作品60」は、精神的に出口を失ったかのような陰鬱な空気にはじまります。ピアノで放たれる「ド」の音は、ピストルの音。そう想起させるようになったのは、ブラームス自身が出版社ジムロツクに宛てた手紙で、この楽譜の表紙に、頭にピストルをあてた男の絵を描いてはどうかと冗談も言えない内容をしたためていたことでした。一方で、3楽章は、後に完成する交響曲 第1番の2楽章に登場するヴァイオリンとオーボエのソロのメロディを思わせるような美しい憧れに満ちた緩徐楽章となっていることも見逃せません。作品それぞれに、ブラームスの人生が背景にあり、ドイツの伝統の形式を守られた絶対音楽でありながらも、人の心の琴線に触れる理由がそこにはあるのです。

## さよなら、 ブラームス

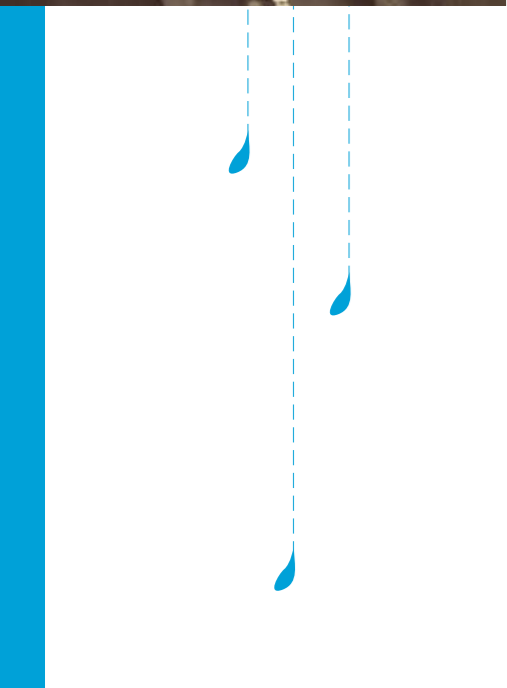
「6つのピアノのための小品 作品1-18」は、ごく晩年の作品です。この頃、親しい友人の死や、家族の死など悲しい出来事と、友人との不和から偏屈よばわりされて孤独感を感じていたことは音楽にも色濃く表れています。心の中の動きそのものを音楽に絞り出して描くようにヨハネスは最後のピアノ作品群を書き上げています。ヨハネスは自分の作品の「断捨離」で過去の習作や作品のスケッチなどを自らすべて焼き捨ててしまします。自分にも厳しい人だったのかもしれない。また、交響曲 第1番を書き上げるまでに20年かかったという話があるように、とても慎重に推敲に推敲を重ねて作品を書き上げる人だったようです。一方で、作品を書こうというモチベーションが、

友人たちのお祝いや悲しみに寄り添うものであったこと、またそれらの作品を友人たちがしつかりと批評しあい、練り上げられていたことが窺えます。

1896年、最愛の人、クララが亡くなります。

ヨハネスには、弦楽六重奏曲 第2番でも知られるアガター・フォン・シーボルトとの恋や、シューマン夫妻の三女ユリエの恋などの話もありますが、結果的に生涯独身を過ごしました。憧れ、恋、尊敬、信頼、愛の対象であったと思われるクララ。彼女に押し付けられたそのほかの誰との関係性とも違う形で付き合い続けたことが二人の書簡と音楽から読み取れます。40年もの間の付き合いの中には、時に疎遠になることもあったようですが、音楽史上でも、シューマン夫妻と、ヨアヒム、そして、ブラームスの4人の友情関係は多くの傑作の「創作の泉」となりました。

クララの死後、ヨハネスはその役目を終えたかのように力を落としていき、後を追うようにして、1897年にその生涯を



鈴木 隆

仙台銀行代表取締役頭取



吉岡知広

イズミノオト企画  
コーディネーター／チェリスト



お二人とも仙台のご出身ですね。

吉岡 はい。生まれは神奈川県小田原市ですが、父の転勤ですぐ仙台に越してきて、それから中学卒業まで仙台で過ごしました。高校からは東京の桐朋女子高校音楽科(共学)に通いました。

鈴木 私は生まれも仙台です。父が転勤族で、小中学校時代は宮城県内で6回の転校を経験しました。高校は仙台第二高等学校を卒業し、成蹊大学文学部に進学しました。

現在のお仕事に就かれた経緯は？

吉岡 桐朋学園の大学を卒業後、ドイツに留学してイブツヒ音楽演劇大学大学院を修了しました。ドイツでは学生契約でライプツヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の一員として演奏活動も行っていました。が、地元の仙台フィルで募集があると聞き、仙台に戻ることを決意をしたのです。

鈴木 私は文学部ということもあり学生時代はジャーナリストを夢見ていましたが、最終的に地元の銀行を選び、現在に至ります。初心は成就しませんでした。が、仙台銀行で素晴らしいお客様や良い仲間に出会えたので良かったと思っています。

現在の職場はどのようなところですか。

吉岡 仙台フィルは団員間の雰囲気がとても良く、それが音色の温かさにも表れていると思います。これまで積み上げてきたよい伝統を受け継ぎながら新しい音を創っていく、地元の皆様を誇りに思っている、ただけるようなオーケストラを目指したいですね。

鈴木 仙台銀行は1951年、中小企業支援の目的で創業しました。5年ほど前から「人勝る銀行」をモットーに人材育成を進めてきましたが、現在は、それがさらに進化して、頑張っている職員を国内ならどこへでも自分の選んだ地域と企業に視察・研修にだしたり、女性が結婚・出産しても長く働ける環境を整備したりと「働き甲斐があつて、働き

やすい銀行」を目指しています。そのような中で、職員自らの声で立ち上がった「しも応援すずめ組」という、すずめ踊りの部活動がありまして、各地のお祭りに参加するなど地域貢献活動も行っています。組織の雰囲気の良さ、温かさなど仙台フィルに共感できる点があります。

普段どのような音楽を聴かれますか？

吉岡 クラシックは聴き始めると深く考え込んでしまうので、リラクセスしたい時にはジャズやJ・POPなどを聞いています。

鈴木 私も音楽を聴くことが好きで、移動中もよく音楽を聴いています。一番はジャズ、その他にポップス、クラシックなど幅広く聴きます。クラシック音楽ではちょうど今回スポットを当ててるブラームスのピアノ協奏曲第2番が大好きです。素晴らしい作品だと思います。

吉岡 協奏曲第2番は私も大好きです。特のこの曲の第3楽章は、壮大なチェロの独奏とピアノとの掛け合いが特徴的で、チェリストにとっても憧れの一曲です。鈴木 壮大な叙事詩というか、ドラマティックな作品です。よね。ぜひ仙台フィルの演奏でも聴いてみたいですね。

さて、今回の企画についてお話しください。

吉岡 私が育った泉区のホール「仙台銀行ホールイズミティ21」から発信される「オト」というイメージで「イズミノオト」とタイトルに付けました。また、一人の作曲家に焦点を当て、その生涯やひととなりを感じながら、演奏を聴いていただくことで、その作曲家の作品をよりお楽しみいただけるのではと考えています。それから今回の出演者は、仙台出身、仙台に縁のある方ばかりというところにも注目していたらと思います。仙台から輩出されている素晴らしい演奏家の演奏を聴いて、子供たちが演奏家に憧れるきっかけになつてくれたら嬉しいですね。

鈴木 「地元」という共通項のもと、才能に恵まれた皆さんがこれだけ集まって演奏会を開いてくれるのは、すごいことですね。

今回、ブラームスに焦点を当てた理由は？

吉岡 ブラームスの作品を愛する人が多いということもありますが、彼はとても興味深い生涯を送った作曲家です。伝記を読み込むほどに、その苦悩に満ちた人生と作品が繋がって、深く味わうことができるのです。今回、ブラームスが生涯慕ったクララ・シューマンへの想いが込められた作品などもお楽しみいただければと思います。

鈴木 吉岡さんの想いがこもったお話を伺って、ますますコンサートが楽しみなになりました。

今後の展開はどのようにお考えですか？

吉岡 このシリーズで私たち演奏家が高質な演奏を提供し続けることで、お客様には非日常の時間をお楽しみいただければ嬉しいです。私を育ててくれた地元・仙台に、音楽を通してご恩返しできればと考えております。

鈴木 仙台が東北の中心地として、また文化的にも魅力のある街として、成長・発展していつてほしいという願いがあります。音楽があふれ、文化の香り高い街を目指し、この企画がその一翼を担っていただけることを期待しています。

ありがとうございました。

鈴木 隆

イズミティ21のネーミングライツ企業である仙台銀行の代表取締役頭取。学生時代からバスケットボールに打ち込み、現在も年間100試合以上を観戦する。

吉岡知広

泉区出身、在住のチェリスト。仙台フィルハーモニー管弦楽団チェロ首席奏者。イズミノオトでは企画コーディネーターを務める。好きな食べ物豚の角煮。

(文中、敬称略)

## 【プログラム】

### ブラームス

ピアノソナタ 第1番 ハ長調 作品1より第1楽章

チェロソナタ 第1番 ホ短調 作品38より第1楽章

8つのリートと歌 作品59より第3曲「雨の歌」

ヴァイオリンソナタ 第1番 ト長調 作品78より第3楽章「雨の歌」

アルトとヴィオラのための2つの歌 作品91

6つの小品 作品118より第5曲

ピアノ四重奏曲 第3番 ハ短調 作品60



石丸 友貴  
ピアノ



倉戸 テル  
ヴィオラ



高山 圭子  
アルト



鈴木 康浩  
ヴァイオリン



大江 馨  
ヴァイオリン



吉岡 知広  
チェロ・コーディネーター

仙台市泉区出身。桐朋女子高校音楽科(共学)を経て桐朋学園大学音楽学部を卒業。その後ライプツィヒ音楽演劇大学大学院に在学するとともに、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団と学生契約し、卒業後は同オーケストラアカデミーに在籍。第9回、第10回、ホルン・チェロコンクール第4位入賞、チェロを金木博幸、青木十良、藤原真理、毛利伯郎、C.ギガールの各氏に、室内楽を今井信子氏、東京クアレルテットに師事。現在、仙台フィルハーモニー管弦楽団首席チェロ奏者として在籍。

1994年生まれ仙台市出身。レオポルトモーツァルト国際コンクール第3位、日本音楽コンクール第1位等数々の入賞。桐朋学園大学ソリストディプロマコースに特待生として入学、同時に慶應義塾大学で学び、卒業。その後ドイツのクロンベルクアカデミーにて研鑽を積み、ミュンヘン放送管、N響をはじめ数多くのオーケストラと共演を重ねる。文京楽器の協力のもと、Beare International SocietyよりT.B. Williamsの賞与。

桐朋学園大学卒業。ヴァイオリンを辰巳明子氏に、ヴィオラを岡田伸夫氏に師事。第9回クラシックコンクール全国大会ヴァイオリン部門第2位(1位なし)。第12回宝塚ガガ音楽コンクール弦楽部門第1位ほか受賞多数。2001年からベルリンのカラヤンアカデミーで研鑽を積んだ後、ベルリンフィルの契約団員となる。04年に帰国し、06年から読響ソロ・ヴァイオリン首席奏者。

これまで第九、モサイア、マタイ受難曲、ヨハネ受難曲、ロ短調ミサ、アルトラブソナード、モーツァルト・レクイエム、オラトリオを始めとする宗教曲等のアルトソロとして、仙台フィル、東京交響楽団、日本フィルなど数々のオーケストラと共演。その他ドイツ歌曲を中心としたコンサートにも国内外数多く出演している。2018年にはアメリカ合衆国カリフォルニア州にある、モンタルポアートセンター、ルーカスアーティストレジデンシーに招待される。

大阪生まれ。東京藝術大学を経て、同大学大学院修士課程を修了。1995年にジュリアード音楽院大学院卒業。オーケストラとの共演や、国内外で多数のリサイタルを開催。ピアノを芝幸子、矢部民、高良芳枝、故堀江孝子、マーティン・キャンシに、室内楽を故サミュエル・サンダース、ジヨサン・フレドマン、チャールズ・ナイディックの各氏に師事。宮城教育大学教授。

仙台市生まれ。桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学音楽学部を経て渡仏。パリ地方音楽院、パリ国立高等音楽院を最優秀の成績で修了。第4回フオーレ国際ピアノコンクール第3位、第6回イスミア国際ピアノコンクール第2位など数々の国際コンクールで入賞。庄司美知子、菅野潤、竹内啓子、本村久子、オリヴィエ・ガルドン、クレール・デゼール、エマニエル・メルシエの各氏に師事。

会員募集中!

仙台銀行ホール イズミティ 21コンサートシリーズ  
公式Facebookファンクラブ イズミノオトモダチ

出演者のメッセージやコンサートに関すること、泉エリアの様々な情報、そして会員だけのお得な情報など発信していきます。ぜひ“いいね!”してください。

URL: <https://www.facebook.com/izuminootomodachi/>